



災害時における外国人避難誘導訓練 ～青森県弘前市における「やさしい日本語」の取り組み～

弘前市総務部防災課 主幹兼防災係長 中村 智行

はじめに

訪日外国人の数が年々増加するなか、観光に携わる事業者等が、地震等の災害発生時に外国人観光客等を速やかに誘導し、適切な情報を提供する必要性がますます高まっています。

青森県においてもここ数年、外国人観光客は増加傾向にあり、特に弘前市では、「弘前さくらまつり」や「弘前ねぶたまつり」（2020年はどちらも中止になりました）などをはじめ、外国人観光客が大勢訪れています。

初めての「外国人避難誘導訓練」

こうした背景を踏まえ、弘前市では2019年4月「弘前さくらまつり」における外国人観光客の避難誘導訓練を初めて実施しました。

これまで、観光部局等により、人出ピーク時の事故や混乱を防ぐための「雑踏警備訓練」は行ってきましたが、災害を想定した訓練は実施してきませんでした。本来であれば、主催者により、危機管理の一環として実施すべきものでありましたが、現実的には祭りの準備等に忙殺され、またそもそも防災のノウハウもなかったことから、防災課との共同により訓練の企画・運営を行いました。



弘前さくらまつりの様子

この訓練は、祭り期間中に震度6弱の地震が発生したという想定のもと、地震に不慣れな外国人観光客に対し、祭り関係者等が地震の発生を伝達するとともに、会場である「弘前公園」から指定緊急避難場所の1つである「弘前市立観光館」まで、簡単な単語とわかりやすい文章による「やさしい日本語」で避難誘導・支援することを目的に実施しました。



避難者登録カードの記入を体験する様子

「やさしい日本語」とは、今年春に退官した前弘前大学教授の佐藤和之氏を中心に提案された、普通の日本語よりも簡単で、日本語に不慣れな外国人にもわかりやすい日本語のことであり、そうした人たちが災害発生時に適切な行動をとれるように考え出されたのが始まりです。「やさしい日本語」は、災害時のみならず平時における外国人への情報提供手段としても研究され、行政情報や生活情報、毎日のニュース発信など、全国的にさまざまな分野で取り組みが広がっています。

訓練を実施するにあたり、大きく2つの問題に直面しました。1つ目は、訓練のコントローラーとなる外国人観光客役の外国人をどうやって集めるのかということ、2つ目は、避難誘導役（プレイヤー）である祭り関係者に「やさしい日本語」を用いて誘導を行う利点や必要性をどう理解させて訓練に参加してもらおうのかということでした。

外国人については、幸い弘前市で外国人技能実習生の受入れ事業を行っている組合があり、ほぼ毎月受け入れているということから協力を要請し、今回はベトナム人28人が参加しました。当初、地元大学の留学生にお願いすることも考えましたが、留学生は日本語に精通していることもあり、より実践的な観光客役としてベトナム人技能実習生に参加してもらいました。



外国人観光客役のベトナム人を誘導する避難誘導役

「やさしい日本語」の理解については、避難誘導役に対して佐藤和之氏による事前の勉強会を行い、「やさしい英語」よりも「やさしい日本語」を使う利点や必要性を学ぶことができました。



段ボールで作成したA3判の簡易な避難誘導ボード

今回の訓練では、来日2週間のベトナム人技能実習生が、どんな行動をとるのか予想もつかず、緊張感にあふれた訓練となりました。そもそも多くの外国人は、地震の経験がなく、地面が揺れること自体が理解できないため、パニックになる場合もあります。誘導には、段ボールで作成した簡易なボードを用いて、ボードの表面には、「大きな地震です！自分の体を守ってください」、裏面には「地震はとまりました！私のあとについてきてください」と記載しました。

訓練では、地震の発生を防災行政無線により「やさしい日本語」で知らせ、ボードを持った避難誘導役が近づき、ベトナム人全員を無事に避難場所へ誘導することができました。

この訓練により、「やさしい日本語」による避難誘導が、日本語に不慣れな外国人にも有効であるということ

を確認できたばかりでなく、避難誘導役が実際に「やさしい日本語」を用いて避難誘導をしたことで「やさしい日本語」で外国人観光客の避難誘導ができるという実感を得ることができました。



外国人観光客役のベトナム人に地震の発生を伝える

集客施設での「外国人避難誘導訓練」

2019年9月には、「弘前はるか夢球場」でのイベント中に震度6強の地震が発生した想定で、地震に不慣れた外国人客に対し、施設管理者等が「やさしい日本語」を使って伝達・避難誘導することを目的とした避難誘導訓練を、「弘前市総合防災訓練」の一環として実施しました。

外国人客役には、新たに来日したベトナム人技能実習生44人が参加し、「やさしい日本語」で書かれたボードや球場大型スクリーンに映し出された「やさしい日本語」、さらには「やさしい日本語」による球場アナウンスにより、球場スタンドからグラウンド内へ避難誘導を行いました。



野球場大型ビジョンを活用した「やさしい日本語」による避難誘導

今回の訓練では、避難誘導役の能力による「やさしい日本語」の違いを少なくするため、できるだけ言葉を発しないこととしたほか、1塁側スタンドと3塁側スタ

ンドにおいて、「日本語が比較的話せるグループ」と「そうでないグループ」に分け、それぞれの対応の違いを検証しました。

この結果、「やさしい日本語」の有用性が改めて実証されたほか、ハーディング効果（群衆の後追い効果）についても確認することができました。



球場スタンドからグラウンド内への避難誘導

参加したベトナム人技能実習生の方は「母国では地震が少ないため最初は怖かったが、簡単な日本語でわかりやすく、安心して逃げることができた」などと感想を述べており、2回の訓練を通して、災害時における外国人の避難誘導に「やさしい日本語」が有効であるということに関係者で共有することができました。

今後に向けて

防災訓練というと、どうしても防災部局の担当というイメージがついてきますが、本来であれば主催者等が危機管理の一環として、自主的に訓練を企画・実施していくことが理想です。

今回の事例のように、防災部局のノウハウを生かしながら、共同で訓練の企画・運営を行い、次回以降も継続的に取り組んでいけるような環境を整備することも重要であると考えます。

弘前市では今後も、このような訓練を通して災害時要配慮者等へのサポートを継続的に実施し、防災力強化に向けた取り組みに努めるとともに、弘前発の「やさしい日本語」が、弘前市のみならず全国の市町村において有効活用され、安心・安全なまちづくりへつながることを願っています。